

**2013年3月25日 日本テレビ 定例記者会見**

**《 要旨 》**

**< 発表 >**

**・ 開局 60 年番組「7days チャレンジ TV ～一緒に、未来貢献。～」**

開局 60 年のイベントの 1 つとして 6 月 2 日(日)から 9 日(日)までの 1 週間、「7days チャレンジ TV」というタイトルで、様々な“未来貢献チャレンジ”企画を実施し、放送する。「24 時間テレビ」と並ぶような長続きするプロジェクトに成長することを期待している。

サブタイトルは「一緒に、未来貢献。」。メインテーマは“次世代の子どもたちに笑顔を運んでいこう”であり、「図書館のない地域に住む子どもたちに本を」など、様々な企画を予定している。総合 MC はウッチャンナンチャンのお二人。

4 月からはミニ枠番組をスタートさせ、「7days チャレンジ」に向けた取り組みを紹介していく。また、特別番組の編成などについては、今後、順次発表していく。

**・ 巨人軍主催全試合をインターネットライブ配信**

巨人軍主催全試合をインターネットでライブ配信するサービスを開始する。昨年も何試合かをトライアルで配信したが、今シーズンは巨人軍主催 72 試合全試合をインターネットでライブ配信する。有料のサービスで、「日テレオンデマンド」内の「ジャイアンツ LIVE ストリーム 2013」というサイトで視聴できる。

タブレットやスマートフォンを使い、帰宅途中などに「日テレオンデマンド」でご覧いただくことができる他、様々な形で観戦していただけるシステムである。巨人戦は、CS チャンネル「日テレ G+」で全試合放送しており、テレビでは従来通り観戦できるが、今後は外出時などにもモバイルで観ることができる。視聴者の方々それぞれの一番使い勝手の良い、自分のデバイスで、観たい時に観ていただけるものと考えている。

また、巨人戦に接触する機会が増えることで、野球ファンの増加につながることも期待している。

**・ 大災害時における事業継続**

東日本大震災からまる 2 年が経った。大きな災害が起きた場合に事業を継続するための対策は、テレビ局にとって非常に重要なテーマである。私どもは自然災害等があった場合

にも、放送を続け、報道を続けることが使命である。この責任を必ず果たすための対策の強化に、一昨年の東日本大震災以来ずっと取り組んできた。

その一環で、この度、千代田区・麴町の社屋にバックアップ用の放送設備を導入した。設備は、放送素材をスケジュールに従って送出するための「マスター設備」と、そのデータを登録するための「営放設備」で、CMを含めた放送を行うことが可能である。

現在、政府の被害想定は、大きな津波で被害を受けることはないとしているが、首都圏に大規模な地震が起き、万が一にも大きな津波が押し寄せた場合、汐留からは放送ができなくなる危険性がある。また、その後、電源が復旧して電力会社から電気を供給されるようになった場合も、汐留社屋の事情によって番組が放送できないということは非常に問題が大きい。そこで、電源が復旧した後、直ちに放送を再開できるように、バックアップの放送設備を麴町に導入することにした。4月中旬にはシステムチェックを行い、不測の事態に備える。

## **1. 視聴率動向と編成戦略**

先週（3月18日週）の視聴率は、全日、プライム、ゴールデン、すべて2位。

視聴者に支持され、同時にスポンサーに支持される、しっかりとした良い番組作りを日々進めている。結果は、良い番組を作れば必ず付いてくると信じている。

4月の改編を機に巻き返しを図っていく。開局60年の節目の年に、再び3冠王を獲得することを目指す。

### **・4月期の番組改編**

4月から、日曜日に放送している「シューイチ」を前に30分拡大し、7時30分から放送する。スポーツやトレンドなどの話題を他局とは違った目線で伝えていく。7時から7時30分までは「所さんの目がテン!」、その後「シューイチ」を放送することで、今後は非常に良い視聴フローができると考える。

バラエティー番組の視聴率は、視聴習慣が非常に大きな要因であり、新しいバラエティー番組で、すぐに結果が出るという例は少ない。これがドラマとの決定的な違い。「我慢」と「見極め」が編成上のポイントになる。

### **・金曜ロードSHOW!**

昨年4月から「金曜ロードショー」という旧タイトルから、「金曜ロードSHOW!」にタイトル変更し、ドラマも放送できる体制にした。基本的に映画を中心に、そして映画と匹敵するような単発ドラマも放送していく方針である。今年の3月1日に、この枠で放送し

たドラマ「チープ・フライト」は、高い視聴率を獲得した。

## 2、営業状況と放送外収入

2月のスポット単月売上で、各局の中でのシェアが約10年ぶりに1位となったようだ。シェアは、市況の問題、スポンサーの動向等により、毎月変動している。1年を通して、売上で1番になることを目指しているが、目下のところは良い時もあれば、そうでない時もあるという状況である。

3月のスポットは、現時点で、エリア全体では前年比100%には届かないという状況であり、やや停滞気味になっている。その中で、100%を超えるように努力しているが、見通しははっきりしていない。4月のスポットの状況は厳しい模様。

下期全体の営業状況については、売上ベースで、ほぼ前年並みという水準。

タイムセールスについては4月セールスがほぼ終了し、レギュラーのネットタイムは完売。前年を超える水準となっている。

今年は開局60年の年、今後も様々な単発番組を作る予定であり、これらのセールスにも力を入れていく。アベノミクスで景気が上向き、明るい見通しのようだが、テレビ広告の世界では、今のところ株価のような伸びが確認できるまでには至っていない。

### ・放送外収入

映画は「脳男」を上映中。また、「HUNTER×HUNTER 緋色の幻影」の公開は3月15日に終了、成功に終わった。

この度行われた日本アカデミー賞において、「おおかみこどもの雨と雪」が最優秀アニメーション作品賞を、「桐島、部活やめるってよ」が最優秀作品賞と最優秀監督賞、最優秀編集賞の3賞を獲得した。また両作品は、このほかにも様々な賞を獲得している。

イベントは、現在「ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展」を森アーツセンターギャラリーにて開催中、順調に推移している。

また、最近話題になった「Princess MONONOKE～もののけ姫～」は、宮崎アニメの代表作「もののけ姫」を英国の若手劇団「Whole Hog Theatre」（ホール・ホグ・シアター）によって舞台化するもので、4月29日（祝・月）～5月6日（祝・月）に上演する。

## 3. その他

### ・海外ビジネス

カナダ版「¥マネーの虎」（Dragons' Den）が3月3日に開催されたカナダ最大の映画・テレビ祭「カナディアン・スクリーン・アワード」で、リアリティ番組部門の最優秀作品

賞を受賞した。

また 2 月 25 日、シンガポールにおいて「Hello! Japan (ハロー！ジャパン)」という総合エンターテインメントテレビチャンネルが開局し、「ぐるぐるナインティナイン」、「ぶらり途中下車の旅」、映画「ALWAYS 三丁目の夕日」などが放送されている。開局から 1 ヶ月、すぐに大きなアクションがあるとは考えておらず、ある程度の年月をかけ、定着させていきたい。

そして、タイでは 3 月 17 日にドラマフェスティバルが行われた。4 月以降、当社のドラマは同国で放送される予定になっている。

海外展開の課題の一つに、権利処理の問題がある。関係者が多く存在し、時間がかかるといった権利処理の複雑な手続きを簡素化することを目的とした「aRma (audiovisual Rights management association)」という組織があり、政府の支援も入っている。ここを軸とした権利処理の円滑化を図っていく具体策が間もなく出てくると思われる。

各々の利害が対立することもあるが、お互いに歩み寄り、トータルとして日本の放送コンテンツが、これまで以上に海外で販売され、流通が促進されることを期待する。

特にアジアについては、これから人口が益々増えていくこと、また経済圏として飛躍的に成長していくことが予想されている。東南アジアは日本からも近く、すでに日本の多くの企業が進出し、一定のポジションを獲得している地域でもある。テレビ局もここに足場を築き、海外展開を拡大させていきたいというのが基本的な考えである。

短い期間で、アジア展開の事業収支が整うというような期待は持っていない。むしろその先を見越した展開を今始めたということである。現時点では番組を購入していただいたとしても、あるいはスポンサーが付いて番組を支援していただいたとしてもその単価は日本に比べてはるかに小さい。しかし、将来的には経済力の上昇と共に、徐々に収支のバランスが取れた事業になっていくことを期待している。

ヨーロッパやアメリカをターゲットにしないということはない。アニメも含めて様々なコンテンツのマーケットとして考えている。

## ・東京スカイツリー「受信確認テスト」

昨年の 12 月 22 日から受信確認のテストを行い、3 月 24 日現在での実績は、問い合わせが 13 万 9,600 件、そのうち要対策世帯が 6 万 1,382 件。受信確認テストは 3 月中、さらに 28 日（木）と 31 日（日）に行われ、さらにこの数は増えるのではないかと見ている。

この後、4 月にも確認テストを行い、対策が必要な件数の洗い出し、そして対応をきちんと行うことを通じて、スカイツリーへの送信所移転を予定通り 5 月に実施できるのではないかと考えている。

## ・ WBC

結果は過去 2 回の優勝時に比べると残念だったが、非常に盛り上がった良い WBC だったと思う。日本テレビは巨人戦を地上波、BS、CS と 3 波で放送しており、これまでプロ野球に対して最も力を入れて放送し、応援してきた歴史のある局だ。今回の WBC が今シーズンのプロ野球人気を盛り上げてくれることにつながり、さらにプロ野球全体の隆盛にもつながっていくことを期待している。

一方、ジャイアンツの新戦力は大変充実しており、必ずや素晴らしい展開の試合をたくさん見せてくれるであろうと思っている。

(了)